



## 世界と日本、そして山口の課題

日本の教育は、グローバル化や情報通信技術の進展、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化、複雑化する諸課題への対応が必要となっており、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて、知識を活用し、付加価値を生み、イノベーションや新たな社会を創造していく人材や、国際的視野を持ち、個人や社会の多様性を尊重しつつ、他者と協働して課題解決を行う人材が求められています。また、学校現場では、いじめ・不登校等生徒指導上の諸課題への対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、ICTの活用の要請をはじめ、複雑かつ多様な課題に対応することが求められています。また、社会全体の高学歴化が進行する中で教員の社会的地位の一層の向上を図ることの必要性も指摘されています。（注1）

山口県は65歳以上人口の割合が32.1%と高く、いわゆる「超高齢社会（65歳以上人口割合が21%超）」に突入している状況にあります。一方、20代、30代の若い世代の割合は年々低下し、初めて20%を下回り19.1%となっているとともに、14歳以下の年少人口は17万人で、1985年の33万3千人から、ここ30年間でほぼ半減しています。小学校・中学校・高等学校の児童生徒数もいずれも近年減少傾向にあり、2017年度では、小学校68,788人、中学校35,488人、高等学校34,625人となっており、小・中学校では過去最低の数値となっています。高等学校卒業生も減少傾向にあり、2009年度からは11,000人台で推移しており、2017年度は11,321人となっています。高等学校卒業生の大学等進学率は43.5%（全国54.7%）である一方、瀬戸内沿岸を中心に多くの企業が集積する本県では、工業科の生徒数の割合が高いという特徴があり、就職率は30.4%（全国17.8%）となっています（2017年5月1日現在）。（注2）

## 大学の貢献

### 文部科学省「地域活性化人材育成事業（SPARC）」に採択

山口大学、山口県立大学及び山口学芸大学の3大学連携による「ひとや地域（まち・文化・教育）のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成事業」が、2022年8月30日、文部科学省「地域活性化人材育成事業（SPARC）（注3）」に採択されました。

地域には、少子高齢化や過疎化、人と人とのつながり（コミュニティ）の希薄化などの課題があり、これらをAIやIoTなどのデジタル技術による直接的なデジタルトランスフォーメーション（DX）で解決しようとする取組は多くみられますが、本来はこれらの技術を適用する前に、地域課題を適切に見定める必要があり、「ひと」と「まち」の観点をもつwell-being（注4）は、このために有効な考え方です。

本事業では、well-beingの考え方に立ち、デジタル技術者と協力してDXを実践し、ひとや地域（まち・文化・教育）の課題解決のために貢献できる人材を「文系DX人材」と呼び、3大学が大学等連携推進法人を設立し、連携・協力して文系DX人材を育成します。

本事業で提供する教育プログラムは、3大学が連携協力して実施する「SPARC教育プログラム」と、各大学の特色を活かして実施する「分野専門教育プログラム」で構成されています。各大学はそれぞれ養成する人材像を設定し、取組を推進していきます。

### 工学部が数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）に認定

山口大学工学部の応用基礎レベル教育プログラム「データサイエンス技術」が、2022年8月24日付で文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定されました。

この認定制度は、大学（大学院を除き、短期大学を含む）及び高等専門学校で正規の課程であって、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励するものです。

山口大学は、2021年度にリテラシーレベル教育プログラム「データ科学と社会」が「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されています。

この度認定された教育プログラムは、その上位の応用基礎レベルに位置するものであり、工学部が他学部在先駆けて実施し、その教育が評価され認定されました。



（認定期限：令和8年3月31日まで）

（認定期限：令和9年3月31日まで）

リテラシーレベル                      応用基礎レベル  
数理・データサイエンス・AI教育プログラム      ロゴマーク

注1：文科省、「中央教育審議会、初等中等教育分科会資料5-4」を参照  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1325922.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1325922.htm)

注2：山口県、「山口県教育振興基本計画 2018年度-2022年度」を参照  
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/75093.pdf>

注3：SPARC Supereminent Program for Activating Regional Collaborationの略称

注4：教育未来創造会議では、未来を支える人材育成において在りたい社会像を実現するための重要な視点として、一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ（ウェルビーイング（well-being））を挙げています。幸せには、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康も含まれ、文化と教育はその基盤となります。